

技術的改善状況のまとめ

本年 10 月 1 日までに導入したないしは予定の主なロジック改良

- 1) 2 地震同時処理時のマグニチュード計算プログラムの誤りを訂正した。
- 2) マグニチュード計算のための観測点補正の導入により、少数の観測点のデータからマグニチュードを計算するうえでの安定性・精度の向上を図る。
- 3) 3 点地震波検出時の震源候補検索領域設定を改善し、誤った震源が選択されるのを回避した。
- 4) 繰り返し震源計算の途中で、深さ 10km 未満になることで最大震度予測が 5 弱となり、最初の地震波検出からかなり遅れて一般向け緊急地震速報が発信されるのを、深さ 10km 未満となった場合は 10km に固定することで回避した。
(前震 本震型を見逃さないよう、単純に最初の地震波検出からの経過時間で発信抑止を行うことはしない。)
- 5) これまで最大震度 5 弱以上が観測されたことがなく、異常震域が現れるために震度及び強い揺れの地域ともに予測が難しいやや深い地震(深さ 150km 以深)につき、一般向け緊急地震速報の発信の抑止、高度利用者向け緊急地震速報からの予想震度・予想到達時刻の記載を削除する。

本年 10 月 1 日以降の主な技術的改善の課題

- 1) 島嶼部における震源計算精度の向上
- 2) 本震直後(まだ地面の揺れが収まらない時点)でのマグニチュード計算精度の向上
- 3) 観測点近傍への落雷による誤報発信回避対策